

西陵、ドアオープナー生産

コロナ対策品町工場連携

ウズ
コロナ

【富山】西陵（富山県砺波市、金田恵

一社長、0763・32・5050）は、抗菌効果のある金具を介してドアノブを操作したり鍵が開けられたりするドアオープナー



「さわらんチャージャー」を14日に発売す

る。新型コロナウイルス感染拡大の抑制に町工場ができる貢献策として、対策製品の生産事業に乗り出す。同社のホームページを通して販売する。4種類の素材を用意。価格はチタン製の場合3900円（消費税抜き）。ドアを開けることの

ほか、手すりをつかんだり、付属の導電スポンジを装着してタブレットなどを操作したりといった行動が対象物に直接手を触れることなく可能になる。

先に同様の商品を生産している大村ネームプレート研究所（川崎市中原区）が提供したデザインデータをもとに生産する。同社の銅製品との差別化のため、より軽量のチタン製や、チタンにプラス

ト処理をして高級感を出した商品を展開。銅合金の中でも最高の強度を誇るベリリウム銅のタイプも用意する。

西陵は、大村ネームプレート研究所が町工場ならではの新型コロナウイルス対策として、ドアオープナーの生産を広げようとする取り組みに共感し、今回の事業を始めた。今川誠喜西陵常務は「大村氏の取り組みを知り、これで我々の切断技術で新型コ

ロナ対策を手伝えられると考えた」と話している。

ドア触れずに開閉

西陵14日から販売

レーザー切断加工の西陵（砺波市東中、金田恵一社長）は、新型コロナウイルスの感染防止グッズとして、「ドアオープナー」「さわランチャー」を商品化し、14日から市場投入する。

レーザー切断技術を生かし、合金の中で最も強度が高いベリリウム製と、銅製を各1種類、軽くて高強度のチタン製2種類を作った。

ドアノブに引っかけてドアを開閉したり、エレベーター

ターなどのボタンを押ししたりできる。付属の導電カバー



「さわランチャー」を使ってノブを手で触らずにドアを開閉できる

ーを付ければ、タブレットやスマートフォンの操作もできる。直接手で触るのを避けることで感染リスクを減らす。

大きさは縦4センチ、横8センチ、厚さ3ミリ。重さは20〜40グラム。価格は1個2900〜5900円（税別）。同社のホームページから購入できる。今後、銅器着色メーカーのモメンタムファクトリー・Orii（高岡市）とのコラボ商品も販売する予定。問い合わせは同社、電話0763（32）5050。